

Q: 坐禅を解いたあとに、ガサって、落ちて、なんかこう……、

A: ガサッと落ちてなんかこう? 笑

Q: 全部やさしい感じ。

A: はい。

Q: 人の歩く音も、風も、衣擦れの音も全部やさしい世界みたいなのにいったときがあるんですけど、それは空でしょうか?

A: あー……。それはねえ……。空、から抜いてきたばかりの、大根とか人参、ですね。でも、空のところ……から栄養をもらっているのです。そうですね、空の領域に、入っていても、もしくはその味見をしたり、近づいていても、事象に対する価値判断も、良いも悪いも、なーんもないでしょう?

Q: 全部、やさしいです。

A: はい。価値判断がないから、全部やさしいだけ、なのです。  
より価値があるとか、より価値がないとかいうことはなくて、すべてただやさしく触れているでしょう。……はい。それは、空から派生する、一つの側面です。一つの味わいです。

Q: 空ではない……?

A: ……………空からくる味わいですね。ちなみにそれは、必ずしも空を経由しなくても、そのやさしい感じというのは生じ得ます。というのは、現象への判断が、全部停止してしまえば、そうなるからです。

空に入ったら、現象への判断は停止しますが、必ずしも空に入らなくても、すべての事象をありのままに、瞬間瞬間、瞬発的に、「ただ気づく」ということを高速に、し続けているだけでも、ただ気づいているだけで、判断する暇がなくなってきたら、判断が全部止まってしまって、そうすると、ありのままに見えてきて、ありのままに見えているとき、すべては等価値になって、「価値が脱落した」ということを通じて、等価値だからつまらないわけではなく、まさに仰ったように、

ただやさしくすべてが触れて、いる塩梅になります。それはあたかも、その暖炉が、先日まで、<sup>すす</sup>煤でとても曇っていたので、炎がどれだけ燃えても、なんだか曇ったようにしか見えなかった、であろうところを、激落ちくんとかいうスポンジで拭いてみたところ、あらびっくり、ほぼ全部落ちてしまうと、炎がやさしくゆらめいているのが見えてきて、今、炎がやさしくなったわけではなくて、窓ガラスが曇っているのが取り除かれれば、誰も本当にやさしく、ただ触れて、そのとき「世界がすべてそのまま OK だ」というのが、化石的な言葉の、生き活きとした意味がよく分かったでしょう。

Q: はい。それは、全員本当はそれなんですか?

A: ズバリ、そうです。「これからそうなりましょう!」と言っているわけではなくて、本当はそうなのに、みんな窓ガラスが曇っているので、「これは良くて、これは悪い」と見えているだけです。ですから、それが分かってくれば、根本的な取り組みの要点というのは、「今何か足りないものがあるからそれを補うためにこうなろう、ああなろう」ということでは全然なくて、「この足りない能力補うためにこういうふうにしていこう」というのではなくて、あるがままの状態に心を、適切に戻していくなら、目の前の曇っている窓ガラスが、その曇らせているのにしがみついているのをふっと放して、しまいさえすれば、「どれも全部、もともとやさしかったんだ」という状態で、自分がこれまで気になっていたことも、とても嫌だった記憶も、とてもつらいと思っている身体感覚も、同じ眼差しで見られるとき、「あ、どれもやさしいだけで何の問題もないじゃない」って分かってしまうのです。

何か欠けているものがあって、だから飢え渴く、だから渴愛が、欲しいと思わなきゃいけない、という必要なかったんだ。もともと全部やさしいだけだったんだ。勘違いでどれかは良くてどれかは悪いと思ってただけで、勘違いがなくなったら、こんなにすべて、砂もやさしい、<sup>そら</sup>空もやさしい、山もやさしい、冷たさもやさしい、あった

かさもやさしい、嫌いだと思っていた人の表情もやさしい、好きだと思っていた人の表情もただやさしい、ああ、そうだったんだ、ふるさととはこういうことだったんだ、このふるさとから、さまよい出たつもりになって、いろんな茶番劇があったことだなあ、というところに、戻っていくのです。

Q:みんながそれを知ったら、世界が変わりますね。

A:……なぜ笑っているか、あててご覧なさい。

Q:夢だから。

A:何が夢ですか？

Q:全部夢だから……？

A:うーん、みんながっていうのも夢ですね。

Q:誰もいない、から？

A:とも言えます。

Q:私しかいないから？

A:ある観点からすれば、そう言えなくも、ない気もしますけれど、しかしその、私しかいないと思っている私というのがいないから、です。ただ、それは今あなたが仰った答えに基づいて、それに合うように、答えを作ってみたんですけれど、この頭の中で生じていた、笑顔を浮かべるような気持ちの元というのは、「みんながこうなればいいのにな」とか、思うのはちょっとまだ早い……というか、他人のことを、こうがいいとか、ああは悪いとか、思うことによって見失うものがたくさんあるという程度の、素朴なことです。答えて下さろうとしたような高度な次元のことを尋ねようとしたわけでは、必ずしもないんですよー。もしそのような本質的なことを問われれば、そもそも、もし私が本当にいないなら、ましてや、他の誰かなどというのは、仮に頭によって作られたもので、本当にそこにある、本物であるというわけではない、とも言えますね。仰るように、みんながそれを分かれば、ものすごく平和な世界が到来しますが……、そのことが分かりかけるために、あなたは随分これまで難

儀をしてきたでしょう。そのような、難儀をみんなに課したところで、その難儀を諦めずに続ける人が、いったい何パーセント……、そもそも始める人は、そこそこ最近、瞑想とかなんとかいって流行っているので、まあ、全人口の1パーセントくらいいるかもしれませんが、しかしその人たちの希望を打ち砕くようなことばかりが起き続ける中でこの道を……、って考えてみると、「みんなが……」とかいうのはまったく、意味がなさそうですね。

Q:そうですね。はい、ありがとうございました。

A:……いいと思います。そんな具合に、種は植えられ、それが発芽し、そこからまた、根気強く良い種を植えてこられました。そしてそれはもう否応なくこれから、それらが発芽していく比率が強まっていきます。そして、あなたがこういうふうなルートを進んでおられるかと思うような、思い込みのルートを凌駕するようなかたちで、圧倒して押し寄せてくるでしょうし、それが着実に良き方へと、生まれ変わらせてくれると思います。

それでは、今日はこれで散会にいたしましょう。どうかお氣をつけて、ごきげんよう。

(テープ起こし : e)